



卓 話

物も人もまた同じです。私は美容研究に携わり、美容を個人の問題解決として捉えてまいりました。美容（外観）においては①身だしなみ（60年代）②着こなし（70年代）③着まわし（80年代）さらに90年代からは《着づくり》の時代に入っています。個人の年代の中でもこのプロセスを知ることでは実はとても簡単に自分をより活かすことが出来るのです。

デザインを知ることが個人のより良いライフスタイル、また企業の新たな経済効果への始まりです。

★美容デザインの可能性

さて美容においては多くの方が身近で知りたいことが「やり方」に終始します。私の変身トークショーの後では、お客様が並びすべての方が同じことを尋ねられるのです。「私には何が似合いますか」そんな時私はこうお答えしています。「似合わないものはありません。似合わせる方法が違うだけです。でも大切なことはあなたがどうなりたいたいかなのです。」

物作りにおいては、目的に合わせて様々な物のベストマッチを前提にしていきますが、人間の場合ははじめに与えられた自分があります。そして殆どの方が、その与えられた自分に矛盾を感じているのです。誰から見ても綺麗といわれる方は「優しく見られたいと」。しっかりしている方は「暖かく女らしくと」誰から見ても可愛い方は「シャープで大人っぽく」つまり一人一人の『ココロ』の矛盾がとても大切な入り口で、ものづくりのパーツを合わせるのとは違って、人間の場合は『心見つけた。』が自分の進化と成長に欠かせないのです。そしてこの心探しを簡単にしかも合理的にしていく方法が、具体的になかったように思います。

『自分をリ・デザインしませんか？』ではこの心探しをすることから自分を再発見して、可能性をどう広げればよいのかをお知らせしています。多くの方が今の自分は『こういう人』と決めてしまっているようです。なぜそう思い込むのでしょうか。実は本当の自分、日々変わっている自分に気付いていないからなのではないでしょうか。私たちにとってはこのことがまさに「もったいない」の一語に尽きます。

先ず自分を見つけてみましょう。そして自分の「なりたい」をどう表現することで、もうひとりの自分に会えるのかにトライしてみませんか。今からが自分自身を

「自分をリ・デザインしませんか？」

ヘアーメーカー・アーティスト

ザビエル 鈴木氏

★時代はデザインへ

90年代に入り、バブル以降大きくクローズアップされたのが顧客満足への対応でした。毎日のように眼に耳にしたことが「心の時代」ではなかったでしょうか。それは言うまでもないことなのですが、なぜあの時だったのでしょうか。経済思考から見ていくと浮び難いのではないかと思います。でも「デザイン」的に見ると良くわかるのです。

セミナーでは「あなたにとってデザインはなんでしょう？」とお尋ねすることから始めます。多くの方が形・色・など外観に関してデザインを感じていますが、実はデザインは《問題解決》という意味を持っています。あらゆる事柄においての問題をどう解決するか。これがデザインなのです。それは具体的に言いますと《3段階》に分けられ、と言うより3段階で物が成長して行くプロセスがあるということにたどりつきます。①実用性②個性③心理性の3段階です。はじめにお話しましたが、なぜ「心の時代」だったのか。それはデザイン的な3段階「心理性」の時代に入ったからでした。私たちにとっては身近な部分でこのことが良くわかるのが車でもありません。

ゴーン氏が日産を建て直したことはとても近いわけですが、このときゴーン氏が言われたことは「問題はデザインだ。」でした。これは色々ありますが、私たち使う側から見ると良くわかるのです。エンジンと言う実用性の第①段階、個性的（外観も仕組みも）なという第②段階、そして心地よい（乗り心地・ステイタスも）という第③段階で見えていきますと、日産・ホンダ・トヨタがそのまま見えてきます。その時どんなに優れたものも時間の中で進化が進まなければ時代に遅れてしまうわけです。ゴーン氏はそれを的確に見つけたということです。しかし、動力が一気に転換する今、見えているのはまさに、デザインの基本としての「すべての形は機能に従う」時となり目の前で確認できる時になりました。



デザインしなおすチャンスです。美容の最大の効果は観が内観を育てることなのです。それは誰もが今から始められる明日作りです。外観は誤解されるとマイナスですが、勘違いさせることで大きなプラスを生むこととなります。性格さえも励まして見違えるように変わることが出来るのです。

★発想の転換に向けて

実はデザインと言うお話をすると、「感性」が違いますよねとよく言われます。そのたびにお話しするのですが、感性は誰もがより良くアップすることが出来ます。

天才はもともと備わっているかもしれませんが、万分の一の方の話です。多くの方はどうすれば良いかが分からずにあきらめているのです。デザインは思考する回路であり、具体的なプロセスがあるのです。そこから日常を通して自分をレベルアップすることが可能になります。それは過去にとらわれない新たな発想の転換に自分を導いてくれる階段です。

今と言う時代を知ること、即ち「何時・何を・どう」活かして、良い結果を得られるのではないのでしょうか。21世紀の『美しい人生』をテーマにした今、美、知、芸、創を通して、リ・デザインを進めてはいかがでしょうか。デザインは人喜びを創る科学なのです。